

公認内部監査人® (CIA) 資格認定試験

試験内容の詳細

パート 1 - 内部監査の基本

セクション A. 内部監査の基礎 (35%)

1. 「グローバル内部監査基準」で示されている内部監査の目的について説明する (以下を含むが、これらに限定されるものではない)
 - a. 内部監査部門の目標と利点を説明する
 - b. 内部監査部門の有効性に寄与する状況を説明する
2. 内部監査への負託事項と、取締役会及び内部監査部門長の責任について説明する (以下を含むが、これらに限定されるものではない)
 - a. 内部監査部門の権限、役割及び責任を説明する
 - b. 取締役会が内部監査部門の権限を確立又は更新する際に、内部監査部門長が果たす役割を説明する
 - c. 内部監査部門の権限、役割及び責任を決定する際に、取締役会と最高経営者が果たす役割を説明する
3. 内部監査基本規程の要件を認識する (以下を含むが、これらに限定されるものではない)
 - a. 「グローバル内部監査基準」の要求事項の構成要素を識別する
 - b. 内部監査基本規程について取締役会と最高経営者と協議することの重要性を認識する
 - c. 取締役会による承認の重要性を認識する
4. 内部監査部門が提供するアシュアランス業務及びアドバイザリー業務の違いを理解する (以下を含むが、これらに限定されるものではない)
 - a. アシュアランス業務を定義する
 - b. 限定的なアシュアランスと合理的なアシュアランスを区別する
 - c. アドバイザリー業務を定義する
 - d. アドバイザリー業務の内容と範囲がどのように決定されるかを説明する
 - e. 特定の状況下では、どのタイプの業務 (アシュアランス業務又はアドバイザリー業務) が適切かを判断する



公認内部監査人® (CIA) 資格認定試験

試験内容の詳細

パート 1 - 内部監査の基本

5. 内部監査部門が行うアシュアランス業務の種類を説明する（以下を含むが、これらに限定されるものではない） <ul style="list-style-type: none">a. リスク及びコントロールの評価について説明するb. 第三者監査と契約遵守監査について説明するc. ITセキュリティ監査とプライバシー監査について説明するd. パフォーマンスの監査と品質の監査について説明するe. 業務監査、財務監査、規制遵守監査について説明するf. 組織文化の監査について説明するg. 経営管理者報告プロセスの監査について説明する
6. 内部監査部門が行うアドバイザリー業務の種類を説明する（以下を含むが、これらに限定されるものではない） <ul style="list-style-type: none">a. リスク及びコントロールの研修を行う際の内部監査人の役割を説明するb. システムの設計と開発における内部監査人の役割を説明するc. デュー・ディリジェンス業務における内部監査人の役割を説明するd. データ・プライバシーの維持における内部監査人の役割を説明するe. ベンチマーキングにおける内部監査人の役割を説明するf. 内部統制評価における内部監査人の役割を説明するg. プロセス・マッピングにおける内部監査人の役割を説明する
7. 内部監査部門の独立性が侵害される可能性のある状況を識別する（以下を含むが、これらに限定されるものではない） <ul style="list-style-type: none">a. 内部監査部門長の職務上の報告ラインが不適切な状況を識別するb. 内部監査部門の独立性を防御する取締役会の責任を説明するc. 独立性の侵害又は侵害の可能性が認識された場合に取締役会に報告することを含め、内部監査の独立性を防御し維持するための内部監査部門長の責任を説明するd. 予算の制約により、内部監査業務が制限される可能性のある状況を識別するe. 監査範囲の制約やアクセスの制限による影響を説明する
8. 組織体のリスク・マネジメント・プロセスにおける内部監査部門の役割を認識する（以下を含むが、これらに限定されるものではない） <ul style="list-style-type: none">a. IIAの3ラインモデルを説明するb. 内部監査部門の独立性が侵害される可能性のある第1ライン及び第2ラインの責任を識別するc. 内部監査人が第1ライン又は第2ラインの責務を遂行する、又は遂行するとみなされる場合に実施すべき防御措置について説明する



公認内部監査人® (CIA) 資格認定試験

試験内容の詳細

パート 1 - 内部監査の基本

セクション B. 倫理と専門職としての気質 (20%)

1. 誠実性を実践により示すこと (以下を含むが、これらに限定されるものではない)
 - a. 倫理的ジレンマや困難な状況に直面したとき、正直さと専門職としての勇気をどのように発揮するかを説明する
 - b. あらゆる状況において、適法かつ専門的な行動を実践する方法を説明する
2. 個々の内部監査人が客観性を侵害していないかを評価する (以下を含むが、これらに限定されるものではない)
 - a. 自己評価のバイアスと親近性バイアスが個々の内部監査業務に与える影響を評価する
 - b. 利益相反を生じさせる可能性のある状況を分析する
3. 客観性を促進する方針と、侵害を低減する可能性のある選択肢を分析する (以下を含むが、これらに限定されるものではない)
 - a. 内部監査人の再配置が必要とされる状況を評価する
 - b. 個々の内部監査業務の実施又は監督を外部にアウトソースすることが適切な状況を評価する
 - c. 侵害の開示が必要な場合を判断する
 - d. 贈答品、便宜及び報酬を受け取ることが不適切な状況を認識する
4. 内部監査部門の責任を果たすために必要な知識、スキル及び能力 (開発又は調達されたかを問わず) を適用する (以下を含むが、これらに限定されるものではない)
 - a. 効果的なメッセージ、報告、会議、プレゼンテーションを行うために、書面及び口頭によるコミュニケーションスキルを適用する
 - b. 複雑な問題に対処し、革新的な解決策を見出すために、批判的思考と問題解決能力を適用する
 - c. 様々な情報源から情報を収集し、様々なトピックに関する知識を広げるために、調査スキルを適用する
 - d. チームメイトやステークホルダーとの対立を管理し、効果的に協働するために、説得及び交渉スキルを適用する
 - e. 信頼と信用を確立するために、関係構築スキルを適用する
 - f. 進化する環境で成功するために、変更管理スキルを適用する
 - g. 新しい情報を発見し、継続的な学習を促進するために、好奇心を示す
 - h. 内部監査人が継続的な専門的能力開発を追求する必要性を示す状況を評価する



公認内部監査人® (CIA) 資格認定試験

試験内容の詳細

パート 1 - 内部監査の基本

5. 専門職としての正当な注意を発揮する（以下を含むが、これらに限定されるものではない）
a. 専門職としての正当な注意には、組織体の戦略や目標の評価が含まれることを認識する
b. 専門職としての正当な注意には、ガバナンス、リスク・マネジメント及びコントロールの各プロセスの妥当性と有効性の評価が含まれることを認識する
c. 専門職としての正当な注意には、実施される内部監査業務の潜在的な便益に見合ったコストの評価が含まれることを認識する
d. 専門職としての正当な注意には、重大な誤謬、不正、コンプライアンス違反及びその他のリスクの発生可能性の評価が含まれることを認識する
e. 専門職としての懐疑心には、公正不偏の態度を保持し、情報の信頼性を批判的に評価することが含まれることを認識する
6. 個々の内部監査業務において、秘密を保持し情報を適切に利用する（以下を含むが、これらに限定されるものではない）
a. 関連する組織体の方針、手続、法令及び規制を適用する
b. 内部監査の手法を適用する
c. プライバシーと情報の所有権への尊重を示す
d. 情報を保護するための適切な方法を適用する
セクション c. ガバナンス、リスク・マネジメント及びコントロール (30%)
1. 組織体のガバナンスについての概念を説明する（以下を含むが、これらに限定されるものではない）
a. 取締役会、最高経営者、内部監査部門及びその他のアシュアランス・プロバイダの役割を説明する
b. ガバナンスのフレームワーク、原則及びモデルを認識する
2. 組織体の文化が統制環境全体と個々の内部監査業務のリスクとコントロールに与える影響を認識する（以下を含むが、これらに限定されるものではない）
a. 組織体の文化と統制環境を定義する
b. 個々の内部監査業務のリスク及びコントロールを定義する
c. 組織体の意思決定プロセスが、組織体のガバナンス、リスク・マネジメント及びコントロールの各プロセスに与える影響を認識する



公認内部監査人® (CIA) 資格認定試験

試験内容の詳細

パート 1 - 内部監査の基本

3. 倫理やコンプライアンスに関する問題を認識する（以下を含むが、これらに限定されるものではない） a. 組織体に適用される倫理上、法律上及びコンプライアンス上の要件を識別する b. 組織体の倫理のフレームワークにおける内部監査人の役割を認識する
4. リスクの種類に関する基本的な概念を理解する（以下を含むが、これらに限定されるものではない） a. 戦略、業務、財務、コンプライアンス、評判、環境、持続可能性及び社会的責任といったリスクの種類を区別する b. 固有リスクと残余リスクを比較対照する
5. リスク・マネジメント・プロセスの基本的な概念を理解する（以下を含むが、これらに限定されるものではない） a. リスク・マネジメントを定義する b. 組織体のリスク選好とリスク許容度を認識する c. リスク・マネジメント・サイクルの要素を評価する d. 識別したリスクに対する組織体の対応を評価する
6. 組織体のプロセスや部門におけるリスク・マネジメントについて説明する（以下を含むが、これらに限定されるものではない） a. リスク・マネジメント・プロセスの設計と有効性を評価する b. リスク・マネジメントのフレームワークを使用する目的と便益を説明する
7. 内部統制の概念とコントロールの種類を理解する（以下を含むが、これらに限定されるものではない） a. 内部統制の目的を説明する b. 予防的、発見的及び是正的などの内部統制の種類を説明して評価する c. リスクを低減するための適切なコントロールを提案する
8. （財務と非財務の）内部統制の設計、有効性及び効率性の重要性を認識する（以下を含むが、これらに限定されるものではない） a. 内部統制の設計と有効性をレビューする b. 内部統制のフレームワークを使用する目的と便益を説明する



公認内部監査人® (CIA) 資格認定試験

試験内容の詳細

パート 1 - 内部監査の基本

セクション D. 不正リスク (15%)

1. 不正リスクの概念と不正の種類について説明する (以下を含むが、これらに限定されるものではない)
 - a. 不正のトライアングルの概念 (動機、機会、正当化) について説明する
 - b. 不正リスクを認識する
 - c. 一般的な不正スキームを識別する
2. 個々の内部監査業務において、不正リスクを特別に考慮する必要があるかを判断する (以下を含むが、これらに限定されるものではない)
 - a. 個々の内部監査業務の計画策定時において不正リスクを認識する
 - b. 重大な不正リスクさらされる可能性のあるプロセスを評価する
3. 不正の可能性と、組織体が不正リスクを発見して管理する方法を評価する (以下を含むが、これらに限定されるものではない)
 - a. 組織体の不正リスク・マネジメントのプロセスを評価する
 - b. 組織体レベル及びプロセス・レベルでの危険信号を検出し、評価する
 - c. 個々の内部監査業務中に識別した危険信号を報告する内部監査人の役割を認識する
4. 不正の予防と発見のためのコントロールについて説明する (以下を含むが、これらに限定されるものではない)
 - a. トップの姿勢が不正の発生可能性に与える影響を認識する
 - b. 職務分掌の適切な適用を認識する
 - c. 権限レベルによってどのように不正が予防されるかを認識する
 - d. 内部通報ホットライン、照合、監督者によるレビューなど、不正を発見するための一般的なコントロールを認識する
5. 不正調査に関連する技法と内部監査部門の役割を認識する (以下を含むが、これらに限定されるものではない)
 - a. 不正調査に関連する内部監査部門の役割を定義する
 - b. インタビューの手法について説明する
 - c. 調査手法について説明する
 - d. 不正の検査方法について説明する
 - e. 内部監査人が不正調査者と連携する機会を認識し、不正調査者のリスク評価、過去の調査、調査傾向及び内部通報内容をレビューする

